

# 平成22年度 財務の概要

福岡北九州高速道路公社

## 目 次

1. 会計処理の特徴	1
2. 償還準備金積立方式のしくみ	2
3. 収支状況	3
4. 営業中道路の収支状況	4
5. 財務状況	6
6. 償還準備金の積立状況	8
7. 料金収入・通行台数・供用延長の推移	9
8. 供用実績	10
9. 長期借入金の残高状況	12
10. 償還計画と実績の対比	13

## 1. 会計処理の特徴

公社では、財政状態や経営成績を明らかにするため、一般に公正妥当と認められている企業会計原則に準じた会計処理を行っています。

＜根拠法令等＞ 地方道路公社法、同法施行規則、福岡北九州高速道路公社会計規程、同規程実施細則

### 有料道路制度の会計の特徴は

- 有料道路事業は、借入金により道路を建設し、お客様からの料金収入により定められた期間内に償還し、償還完了後は無料開放する制度です。
- 毎年度の『収支差』（収入と費用の差）は全て投下資金（借入金）の償還に充当します。

### 借入金の償還状況を適切に把握するために

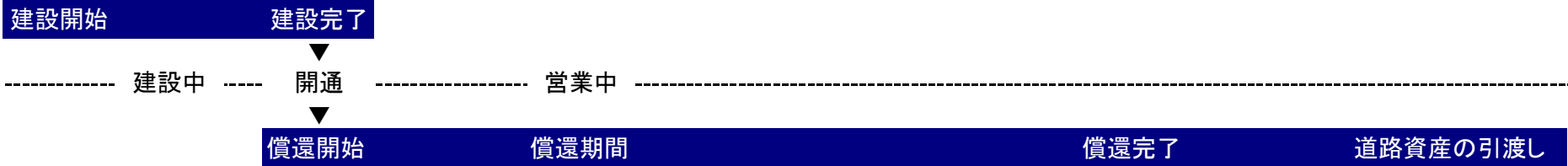
- 福岡北九州高速道路公社は、利益を配当する義務がなく、法人税法の公共法人であるため、法人税を課せられたりすることがなく、収支差の全てを償還に充当します。
- 新たな設備投資資金を積み立てるという企業会計上一般に採用されている減価償却費を計上する方式ではなく、むしろ、無料開放を実現するとの観点から、借入金の償還状況を会計処理において適切に把握することが重要です。

### 償還準備金積立方式を採用

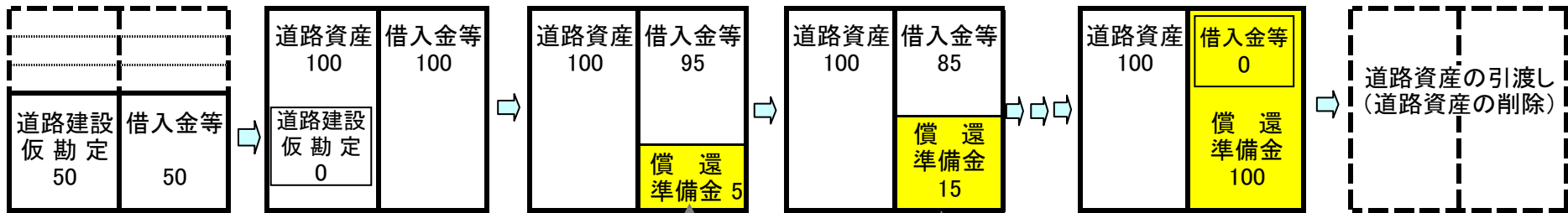
- 借入金の償還に充てられる各年度の『収支差』を『償還準備金繰入』として費用計上し、その累計額を『償還準備金』として負債に計上する方式を採用しています。
- 道路の資産を形成するのに要した費用を積み上げた『道路資産』と借入金の返済に充てる『償還準備金』を対比することにより、償還状況が明確に把握できます。

## 2. 償還準備金積立方式のしくみ

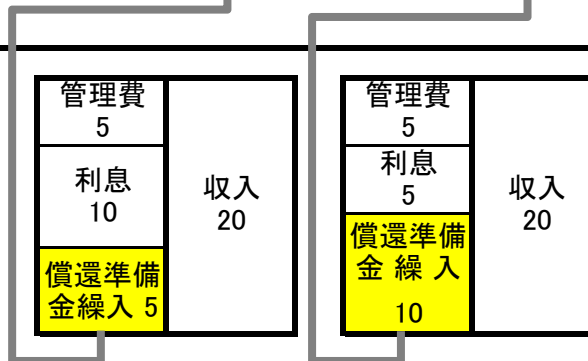
公社の貸借対照表と損益計算書にみる償還準備金積立方式のしくみ



### ■ 貸借対照表



### ■ 損益計算書



### 3. 収支状況

平成22事業年度損益計算書（平成22年4月1日から平成23年3月31日まで）

（単位：百万円）

費用の部				収益の部			
勘定科目	H22年度	H21年度	増減額	勘定科目	H22年度	H21年度	増減額
	A	B	A-B		A	B	A-B
経常費用	51,116	50,483	633	経常収益	51,173	50,521	652
事業資産管理費	9,674	9,534	140	業務収入	50,810	50,249	561
福岡高速道路管理費	5,383	5,458	△ 75	道路料金収入	50,014	49,501	513
北九州高速道路管理費	4,195	3,974	221	(福岡高速道路)	35,109	34,915	194
駐車場管理費	96	102	△ 6	(北九州高速道路)	14,905	14,586	319
一般管理費	1,314	1,322	△ 8	ETCマイルージ還元負担金収入	439	420	19
一般管理費	1,068	1,089	△ 21	(福岡高速道路)	402	402	0
その他	246	233	13	(北九州高速道路)	37	18	19
引当金等繰入	29,077	28,112	965	駐車場料金収入	209	211	△ 2
道路事業損失補填引当金繰入	2,382	2,357	25	その他	147	117	30
(福岡高速道路)	1,672	1,662	10	受託業務収入	268	182	86
(北九州高速道路)	710	695	15	負担金事業受入金	28	22	6
償還準備金繰入	26,695	25,755	940	業務外収益	67	67	0
(福岡高速道路)	21,296	20,685	611	受取利息	10	20	△ 10
(北九州高速道路)	5,399	5,070	329	その他	57	47	10
受託業務費	268	182	86	特別利益	17,310	0	17,310
負担金事業費	28	22	6	道路事業損失補てん引当金取崩益	17,310	0	17,310
業務外費用	10,756	11,311	△ 555	福岡高速道路事業損失補てん引当金取崩益	17,310	0	17,310
債券利息	6,211	6,227	△ 16				
借入金利息	4,332	4,768	△ 436				
その他	212	316	△ 104				
特別損失	17,310	0	17,310				
償還準備金繰入損	17,310	0	17,310				
福岡高速償還準備金繰入損	17,310	0	17,310				
当期利益金	56	38	18				
合 計	68,482	50,521	17,961	合 計	68,482	50,521	17,961

(注)各費目において四捨五入しているため、合計において合致しない場合があります。

#### 4. 営業中道路の収支状況

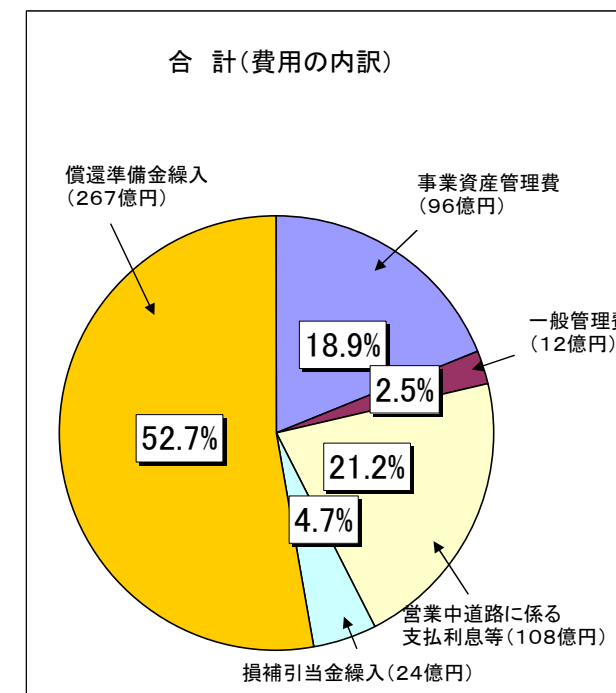
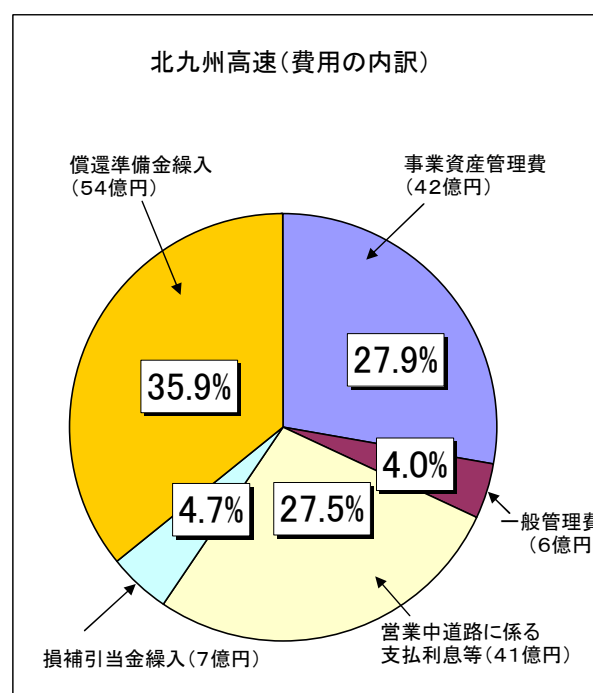
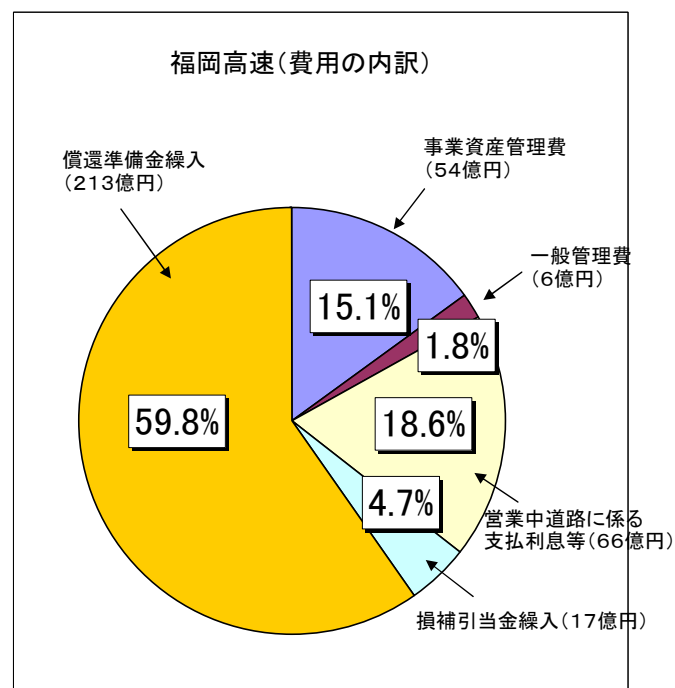
(単位:百万円)

	福岡高速道路								北九州高速道路								合計							
	収益 A	営業中道路に係る費用					償還準備金繰入額 A-B	収支率 B/A× 100円	収益 A	営業中道路に係る費用					償還準備金繰入額 A-B	収支率 B/A× 100円	収益 A	営業中道路に係る費用					償還準備金繰入額 A-B	収支率 B/A× 100円
		事業資産管理費	一般管理費	支払利息等	損補引当金繰入	計 B				事業資産管理費	一般管理費	支払利息等	損補引当金繰入	計 B				事業資産管理費	一般管理費	支払利息等	損補引当金繰入	計 B		
H22	35,614	5,383	643	6,620	1,672	14,318	21,296	40.2円	15,041	4,195	602	4,135	710	9,642	5,399	64.1円	50,655	9,577	1,245	10,756	2,382	23,960	26,695	47.3円
H21	35,420	5,458	640	6,975	1,662	14,735	20,685	41.6円	14,682	3,974	607	4,336	695	9,612	5,070	65.5円	50,102	9,433	1,247	11,311	2,357	24,348	25,754	48.6円

・「償還準備金繰入」は、営業中道路から生じる毎期の収支差を高速道路の建設・改良に投下した借入金の返済に充てるもので償還準備金に繰り入れられるものです。

・「収支率」は、100円の収入を得るのにどのくらいの費用が必要であったかを示すものです。

(注)各費目において四捨五入しているため、合計において合致しない場合があります。



## 【道路部門】

### (1) 福岡高速道路

- ① 経常収益は、356億1,400万円(対前年比1億9,400万円の増)となりました。これは、本年2月26日に開通した5号線の西九州道との接続効果もあり、前年度に比べ1日当たりの利用交通量が790台増加したことによるものです。
- ② 経常費用(償還準備金繰入を除く)は、143億1,800万円(対前年比4億1,700万円の減)となりました。これは、管理費のコスト縮減、金利低下などによる支払利息の減少等によるものです。
- ③ 道路事業における収入から管理費と支払利息等を差引いた収支差である償還準備金繰入は、212億9,600万円(対前年比6億1,100万円の増)となり、道路の建設に投下した借入金の返済に充当しました。また、前年度までに積み立てた道路事業損失補てん引当金241億500万円のうち173億1,000万円を取崩し、償還準備金へ繰り入れました。

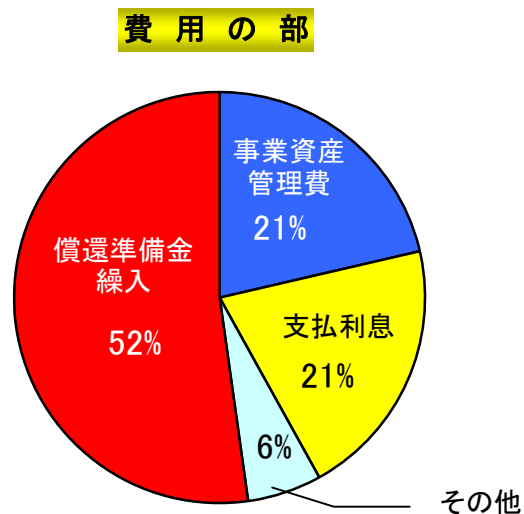
### (2) 北九州高速道路

- ① 経常収益は、150億4,100万円(対前年比3億5,900万円の増)となりました。これは、回数券の廃止に伴い利用者がETCへシフトしたことによるものです。
- ② 経常費用(償還準備金繰入を除く)は、96億4,200万円(対前年比3,000万円の増)となりました。これは、回数券の払い戻し額が4億円増加したものの、管理費の減少と支払利息の減少が見合い額となったものです。
- ③ 道路事業における収入から管理費と支払利息等を差引いた収支差である償還準備金繰入は、53億9,900万円(対前年比3億2,900万円の増)となり、道路の建設に投下した借入金の返済に充当しました。

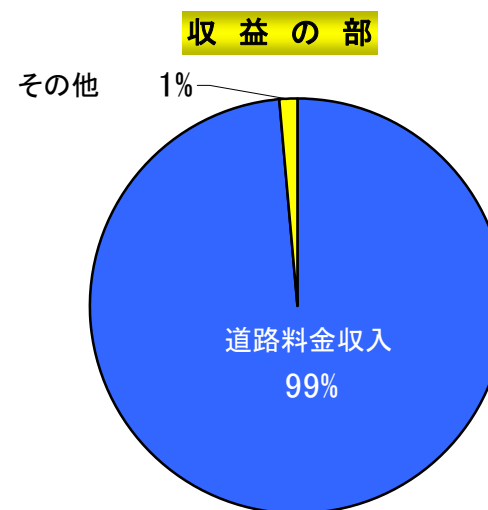
## 【駐車場部門】

- ① 当期利益は5,600万円(対前年比1,800万円の増)となりました。

### ☆損益計算書(道路・駐車場)



※その他:借入金関係諸費等、損失補てん引当金繰入、受託業務費ほか



※その他:駐車場料金収入、業務外収益、受託業務収入ほか

## 5. 財務状況

平成22事業年度貸借対照表

(平成23年3月31日現在)

(単位:百万円)

資 産 の 部				負 債 及 び 資 本 の 部			
勘 定 科 目	H22年度	H21年度	増減額	勘 定 科 目	H22年度	H21年度	増減額
	A	B	A-B		A	B	A-B
流動資産	4,125	10,513	△ 6,388	流動負債	74,221	83,319	△ 9,098
固定資産	1,240,925	1,232,957	7,968	固定負債	718,306	738,659	△ 20,353
事業資産	1,232,946	1,190,397	42,549	福岡北九州高速道路債券	340,111	331,211	8,900
福岡高速道路	858,572	816,200	42,372	長期借入金	370,254	399,238	△ 28,984
北九州高速道路	374,374	374,197	177	退職給与引当金	779	1,073	△ 294
事業資産建設仮勘定	5,354	39,663	△ 34,309	ETCマイレージ引当金	273	248	25
福岡高速道路	5,354	39,663	△ 34,309	資産見返交付金	6,889	6,889	0
北九州高速道路	0	0	0	特別法上の引当金等	232,621	203,544	29,077
有形固定資産	2,272	2,394	△ 122	道路事業損失補填引当金	24,506	39,434	△ 14,928
その他	353	503	△ 150	福岡高速道路	8,467	24,105	△ 15,638
繰延資産	1,119	1,142	△ 23	北九州高速道路	16,039	15,329	710
				償還準備金	208,115	164,110	44,005
				福岡高速道路	196,048	157,442	38,606
				北九州高速道路	12,067	6,668	5,399
				(負債合計)	1,025,148	1,025,522	△ 374
				基本金	220,257	218,382	1,875
				剰余金	764	708	56
				(資本合計)	221,021	219,090	1,931
資 産 合 計	1,246,169	1,244,612	1,557	負 債・資 本 合 計	1,246,169	1,244,612	1,557

(注)各費目において四捨五入しているため、合計において合致しない場合があります。



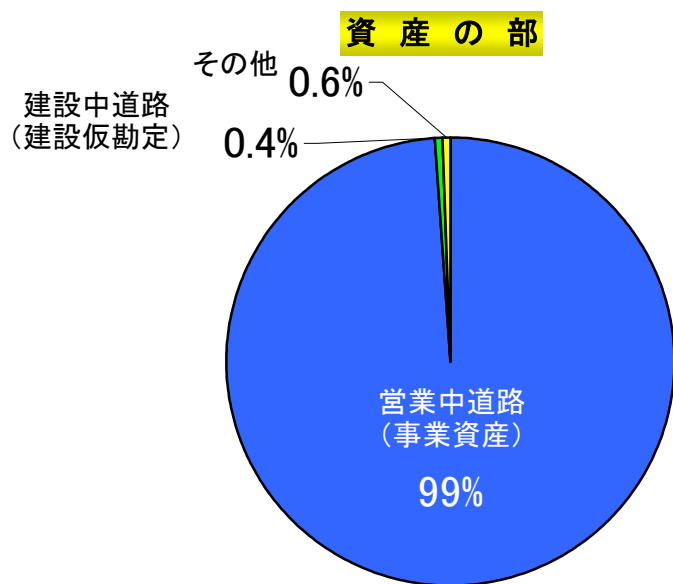
### (資産の状況)

資産の総額は、1兆2,461億6,900万円となっております。このうち営業中の道路資産は1兆2,329億4,600万円、工事中道路の道路資産は53億5,400万円となっております。この合計額は、1兆2,383億円です。資産全体の約99%を占めております。

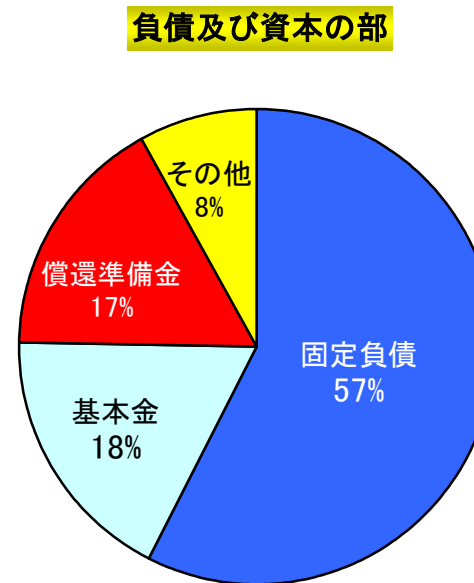
### (負債及び資本の状況)

負債及び資本の総額は、1兆2,461億6,900万円となっております。主なものは、道路債券などの借入金が7,799億4,900万円（流動負債計上分695億8,400万円と固定負債計上分7,103億6,500万円の合計額）、営業中道路の建設・改良に投下した借入金の返済に充てた額（償還準備金）が2,081億1,500万円（福岡高速1,960億4,800万円、北九州高速120億6,700万円）、地方公共団体からの出資金が2,202億5,700万円となっております。

### ☆貸借対照表より



※その他:流動資産、有形資産、その他資産



※その他:流動負債、退職給与引当金、損失補てん引当金ほか

## 6. 償還準備金の積立状況

### 【福岡高速道路】

(単位:百万円)

	営業中道路 (償還対象額) (A)	償還準備金 (B)	未償還残高 (A-B)	償還率 (B/A) × 100
H22	856,259	196,048	660,211	22.9%
H21	813,886	157,442	656,444	19.3%

### 【北九州高速道路】

(単位:百万円)

	営業中道路 (償還対象額) (A)	償還準備金 (B)	未償還残高 (A-B)	償還率 (B/A) × 100
H22	369,798	12,067	357,731	3.3%
H21	369,621	6,668	362,953	1.8%

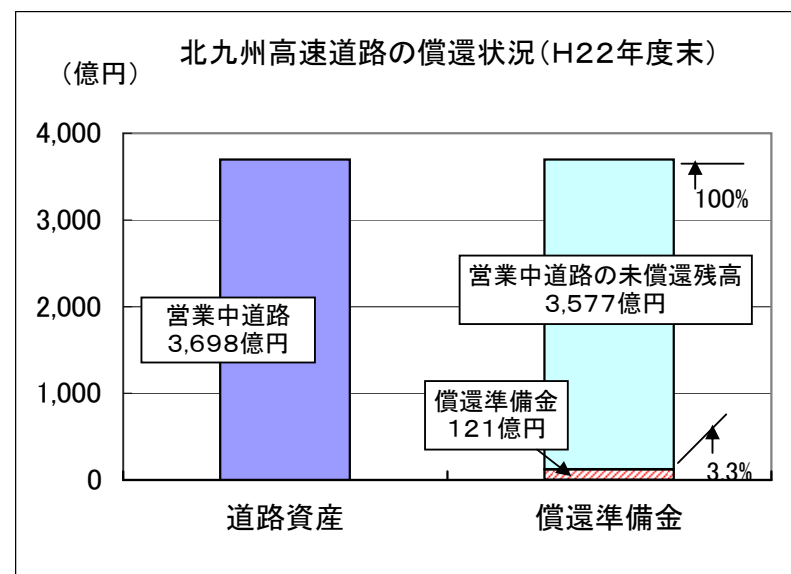
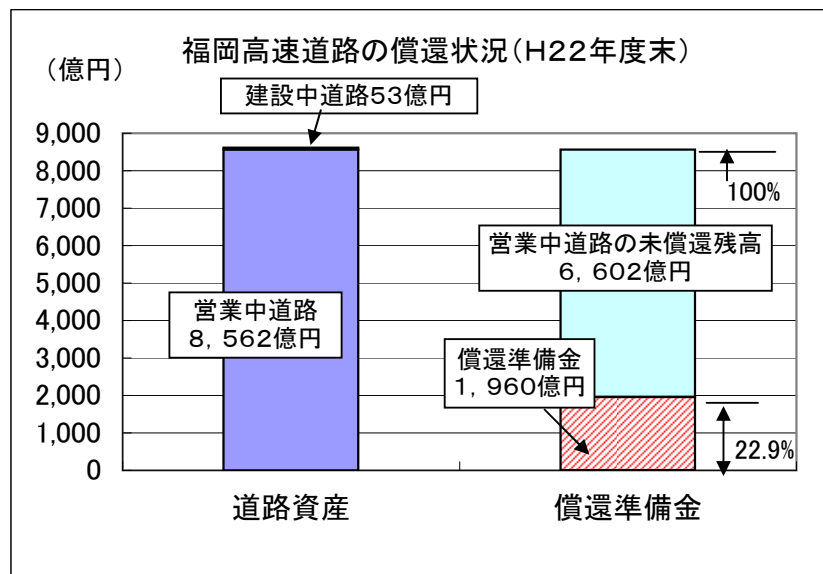
「営業中道路(償還対象額)」とは、営業中道路の建設に投下した額の合計額(営業中道路の資産総額)から、償還を要しない資産見返交付金(補助金)を控除した額です。

「償還準備金」とは、当該年度末までの償還準備金繰入額の累計額です。

「未償還残高」とは、営業中道路について今後償還準備金を積み立てて、返済をしていくことになる金額です。

(単位:百万円)

	営業中道路の 資産総額	資産見返 交付金	営業中道路 (償還対象額)	備 考
福岡高速道路	858,572	2,313	856,259	この他に、工事中道路の資産総額(道路建設仮勘定):5,354
北九州高速道路	374,374	4,576	369,798	



## 7. 料金収入・通行台数・供用延長の推移（全体）

平成22年度

料金収入 **500億円**

日平均料金収入 **1.37億円**

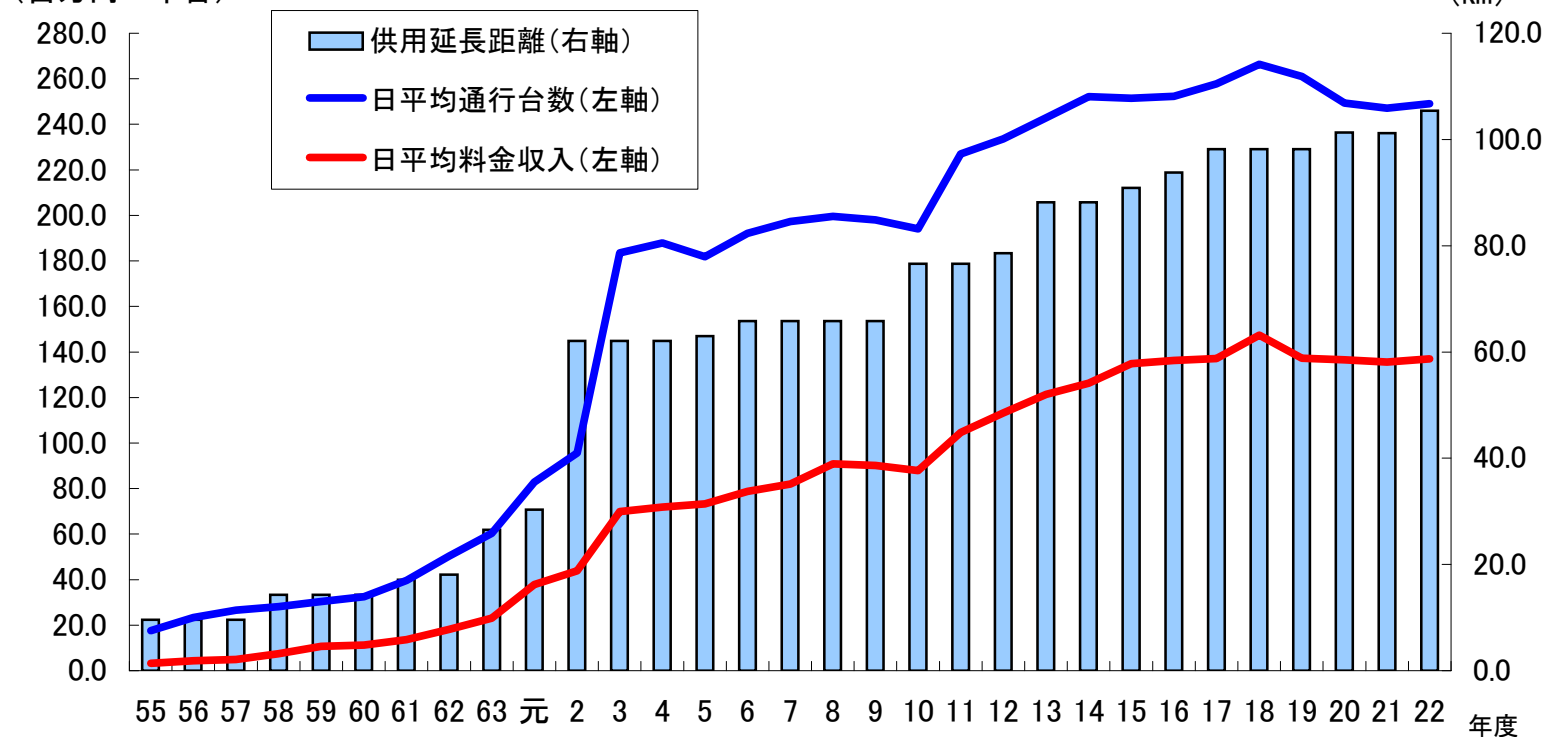
日平均通行台数 **24.9万台**

日平均料金収入・通行台数

供用延長距離

(百万円・千台)

(km)



供用延長距離	
平成23年3月末現在	105.4km
料 金	
福岡高速	
普通車	600円
大型車1,	200円
北九州高速	
普通車	500円
大型車1,	000円

## 8. 供用実績

### 〔福岡高速道路〕

供用区分	供用年月日 料金改定日	供用延長 (km)		供用区間	料 金 (円)	
		区間	累計		大型車	普通車
一次供用	S55. 10. 20	5.9	5.9	香椎～東浜	400	200
	S57. 3. 27	—	5.9	貝塚入口		
	S58. 6. 30	—	5.9	貝塚出口		
二次供用	S58. 10. 6	1.5	7.4	東浜～築港	700	350
三次供用	S61. 4. 23	0.8	8.2	千鳥橋 J C T～呉服町	800	400
四次供用	S62. 11. 6	1.0	9.2	築港～天神北		
五次供用	S63. 10. 31	2.1	11.3	天神北～西公園 千鳥橋 J C T (渡り線)		
六次供用	H 1. 3. 4	5.2	16.5	西公園～百道	1,000	500
				呉服町～榎田		
				豊 J C T～空港通		
	H 1. 10. 1	—	16.5	料金改定	1,030	510
	H 2. 12. 25	—	16.5	名島本線料金所拡幅		
	H 3. 3. 21	—	16.5	東浜西出口		
H 4. 4. 23	—	16.5	名島出入口			
H 4. 7. 1	—	16.5	東浜西入口			
七次供用	H 5. 4. 2	0.9	17.4	香椎東～香椎	1,100	550
八次供用	H 6. 4. 4	2.8	20.2	榎田～月隈北		
	H 9. 6. 1	—	20.2	料金改定 (回数通行券料金)		
九次供用	H11. 3. 27	10.8	31.0	月隈～水城	1,100	550
				貝塚 J C T～粕屋		
	H12. 3. 28	—	31.0	料金改定・貝塚入口	1,200	600
十次供用	H12. 11. 21	0.5	31.5	貝塚 J C T (渡り線)		
十一次供用	H13. 10. 13	5.3	36.8	百道～福重		
十二次供用	H14. 3. 10	1.9	38.7	粕屋～福岡 I C	1,200	600
	H15. 5. 1	—	38.7	料金改定		
十三次供用	H15. 5. 1	2.7	41.4	月隈 J C T～板付	1,200	600
十四次供用	H16. 6. 27	2.9	44.3	西月隈出入口・板付～野多目		
十五次供用	H18. 3. 26	4.4	48.7	野多目～堤		
十六次供用	H20. 4. 19	3.1	51.8	堤～野芥		
十七次供用	H23. 2. 26	4.1	55.9	野芥～福重		
備考	堤西および野芥西料金所において料金自動収受機運用					

(注) 料金改定日は、一次供用を除き供用年月日の翌日です。但し、料金改定のみの場合は同日です。

〔北九州高速道路〕

供用区分	供用年月日 料金改定日	供用延長 (km)		供用区間	料 金 (円)	
		区間	累計		大型車	普通車
一次供用	S55. 10. 20	3.7	3.7	日明～篠崎北	300	150
二次供用	S58. 10. 6	3.2	6.9	篠崎北～若園 東港出入口	700	350
	S59. 4. 21	—	6.9	篠崎南出口		
三次供用	S61. 12. 2	2.0	8.9	若園～横代	700	350
				篠崎南入口		
四次供用	S63. 12. 17	1.1	10.0	愛宕 J C T～下到津	700	360
五次供用	H 1. 8. 30	2.8	12.8	日明～戸畑		
六次供用	H 2. 3. 31	1.0	13.8	戸畑～若戸	720	360
				東港 J C T～小倉駅北		
				西港出口		
				東港出入口廃止		
七次供用	H 3. 3. 31	31.8	45.6	春日～馬場山 一部区間料金 (4号線)	300	150
					400	200
					500	250
					600	300
					720	360
	H 5. 4. 1	—	45.6	料金改定	720	360
	H 7. 9. 30	—	45.6	山路出入口	900	450
	H 9. 6. 1	—	45.6	料金改定 (回数通行券料金)		
八次供用	H12. 7. 26	1.5	47.1	長野～横代	900	450
	H12. 11. 1	—	47.1	料金改定		
九次供用	H13. 7. 2	2.4	49.5	枝光出入口～大谷出入口 大谷 J C T	1,000	500
十次供用	H18. 2. 26	—	49.5	小倉東IC接続		
十一次供用	H22. 12. 15	—	49.5	東田出入口		
備 考	九州縦貫自動車道八幡ICと北九州高速との接続ランプに金剛出口を新設 (H17. 3. 31供用) 九州縦貫自動車道八幡ICと北九州高速との接続ランプに金剛入口を新設 (H18. 3. 4供用)					

(注) 料金改定日は、一次、七次供用を除き供用年月日の翌日です。但し、料金改定のみの場合には同日です。

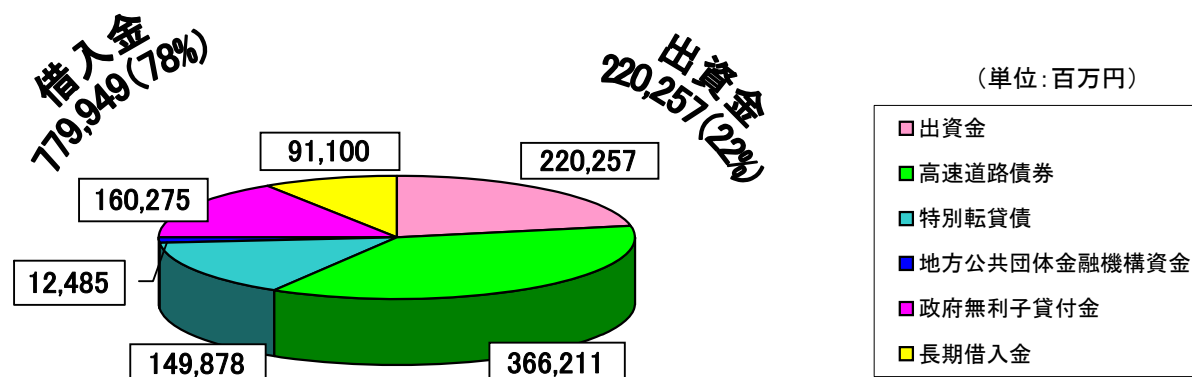
## 9. 長期借入金の残高状況

平成22年度末借入金残高

(単位:百万円)

	全 体			路線別内訳						
				福岡高速			北九州高速			
	H22年度	H21年度	増減額	H22年度	H21年度	増減額	H22年度	H21年度	増減額	
	A	B	A-B	A	B	A-B	A	B	A-B	
設立団体出資金	220,257	218,382	1,875	162,761	160,886	1,875	57,496	57,496	0	
借入金	高速道路債券	366,211	354,911	11,300	217,156	212,744	4,412	149,055	142,167	6,888
	特別転貸債	149,878	160,847	△ 10,969	115,756	122,555	△ 6,799	34,122	38,292	△ 4,170
	地方公共団体金融機構資金	12,485	13,267	△ 782	10,071	10,697	△ 626	2,414	2,570	△ 156
	政府無利子貸付金	160,275	172,118	△ 11,843	124,880	132,937	△ 8,057	35,395	39,181	△ 3,786
	長期借入金	91,100	101,889	△ 10,789	27,000	33,000	△ 6,000	64,100	68,889	△ 4,789
	計	779,949	803,032	△ 23,083	494,863	511,933	△ 17,070	285,086	291,099	△ 6,013
合計	1,000,206	1,021,414	△ 21,208	657,624	672,819	△ 15,195	342,582	348,595	△ 6,013	

(注)各項目において四捨五入しているため、合計において合致しない場合があります。



## 10. 償還計画と実績の対比

【平成22年度決算】

(単位:億円)

道路名		収益(a)	費用(b)				償還準備金繰入(a-b)	償還準備金	事業資産(交付金除く)	償還率(%)
			管理費(うち消費税)	損失補填	金利	合計				
合 計	決算	506	108 (13)	24	107	239	267	2,081	12,260	17%
	計画	529	120 (14)	25	110	255	273	2,098	12,272	17%
福岡高速	決算	356	60 (8)	17	66	143	213	1,960	8,562	23%
	計画	355	69 (8)	17	66	151	203	1,951	8,569	23%
北九州高速	決算	150	48 (5)	7	41	96	54	121	3,698	3%
	計画	174	52 (6)	8	44	104	70	148	3,704	4%

※四捨五入の関係で計が合わないことがあります。

### ●償還計画の対比方法

償還計画は、福岡は料金認可(平成23年2月)、北九州は料金認可(平成20年10月)の値を使用しました。実績(平成22年度決算)と対比するため償還計画を下記のとおり変換しました。

- ・収入は、ETCマイレージ還元負担金収入、ETCマイレージ引当金繰入を加算しました。
- ・管理費は償還計画表上の管理費から道路改良費を減じ、ETCマイレージ還元負担金、ETCマイレージ引当金繰入、減価償却費、退職給与引当金繰入を加算しました。
- ・償還準備金繰入は、収入から管理費、金利、損失補填引当金繰入を差引きしました。
- ・償還準備金は、計画作成時の実績に各年度の償還準備金繰入を加算しました。
- ・事業資産は、計画作成時の実績から交付金を除き、その後に供用した道路の建設費の累計を加算するとともに、各年度の管理費のうち改良費を加算しました。
- ・償還率は、償還準備金を事業資産から交付金を差引いたもので除算しました。

#### ○損失補填引当金

損失補填引当金は、個々の道路で将来事情の不可測性等により償還計画満了時に借入金等が残った場合に備えて、その補填に充てるため料金収入の一部を積み立てているもので、道路整備特別措置法に定められています。

すなわち損失補填金は、決算では費用として扱っていますが、将来のリスクに備え、公社の経営の安定を図る内部保留金としての性格を持っており、その額は借入金の返済余裕を表しています。

損失補填金の残高は平成22年度末で245億円となっています。